

オウイエ ウィリアム 選手・泉澤 仁 選手の紹介

神奈川県川崎市立久末小学校 1 年生時からクラブチームの大空 KSC でサッカーを始め、小学校 3 年生時にはプロになる憧れを持っていた。市立東橘中学校時代は川崎フロンターレ U-15 でサッカーに励んだ。その時の友人二人が、J1 と J3 のクラブに所属しており、現在も活躍をしている。

高校は日本体育大学柏高校に進学、同校のサッカー部に入った。2022 年、高校 3 年生の時に全国高校サッカー選手権千葉県大会で優勝。学校として初めての全国高等学校サッカー選手権大会の出場を掴み取り、同大会では全国ベスト 8 に輝いた。個人としても、高身長を活かした空中戦の強さや規格外のフィジカルが認められて、2023 年から J1 の柏レイソルに加入した。加入当初はレベルの高いプロチームの練習に驚かされる毎日だったというが、同年の天皇杯 2 回戦で山梨学院大学 PEGASUS 戦に途中出場してプロデビューを果たした。しかし、まだまだ体力、持久力、シュート力、メンタルなど自分で課題と思うところがあり、それらを鍛えて、チームの勝利に貢献できるよう、今年から FC 岐阜に育成型期限付き移籍で加入している。

FC 岐阜ではチームメイトとも打ち解け、練習に励んでいる。食事の殆どが外食ですが、岐阜にはおいしいご飯屋さんが沢山あって、特に仲の良いチームメイトの山口欽良選手、寺阪尚悟選手といった仲間たちとの食事を日々楽しんでいます。町の温泉も素晴らしく、くつろげています。夢は世界で活躍する選手になることで、目標とするのは元パリール代表のクリスティアーノ・ロナウドのようなストライカー。メンタルと体力の向上、シュート精度を上げるために、ジムでの厳しいトレーニングメニューにも取り組んでいます。

ナイジェリア人の父と日本人の母の元、姉 2 人兄 1 人と育った。日本での教育のお蔭か、英語で話しかけられるのが苦手であるが、いずれは海外でも活躍できるように英会話をもっと勉強したいと語っている。いつも FC 岐阜サポーター皆さまの熱い声援には感謝しています。



写真：©FC GIFU

オウイエ ウィリアム 選手
(21 歳)

ホームタウン応援大使
高山市
ニックネーム
ウィリ

32
FW

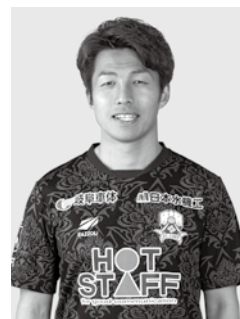
千葉県市川市立塩焼小学校時代から学校の塩焼 FC に入部し、更に街クラブの FC トリムでもサッカーを楽しんだ。市立妙典中学校に進学後は柏レイソル U-15 でプレーした。隣の練習場で柏レイソルのプロ選手が練習しているのを見て、初めてプロになりたいと思ったと懐かしんだ。

その想いで高校は新潟にある JAPAN サッカーカレッジを選び、アルビレックス新潟ユースチームに入った。ここでは元 J リーガーの片渕浩一郎監督の元で学び、「サッカーに限らず、公私に渡ってのひととしての基本をご指導いただいたお蔭で今がある」と、感謝している。その後は阪南大学に進学し、これまで育てられてきたサッカーの蕾が咲き始めてきたようである。同大学 3 年生生時に関西学生サッカーリーグ 1 部で優勝し、MVP 選手にも輝いた。同様に総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントでも優勝を果たした。更に夏季ユニバーシアード日本代表選手に選ばれ、トルコ戦ではマン・オブ・ザ・マッチに選ばれるなど、銅メダル獲得に貢献した。これらの活躍によって、在学中ながら大宮アルディージャの特別指定選手に登録され、2014 年に正式加入。J リーガーとしてのキャリアがスタートした。

大宮では翌 2015 年に J2 優勝を果たし、2016 年には J1 での 5 位にも貢献した。2017 年と 2018 年はガンバ大阪や東京ヴェルディでプレー。ヴェルディ時代のロティーナ監督からの『ボールを取られても良いからドリブルを得意技にしろ』との指導が心に残り、今日のプレーに繋がっている。2019 年にポーランドのチームや横浜 F・マリノスに移籍後、2 年間ヴァンフォーレ甲府でプレー。その後は再び大宮アルディージャに戻ったが、J3 への降格、その翌年に J3 での優勝を果たすなどドラマの 3 年間であった。

そして今年から FC 岐阜に加入し、このドラマを再現したいと願っている。

家族は三重県津市出身の奥様と 3 歳になる娘の 3 人家族である。奥様のご縁で既に多くの人脈の糸が繋がり、楽しい岐阜生活が展開している。信条は『為せば成る』。趣味は特にないが、友人が財産である。昇格に向けて全力で頑張りますので応援をお願いいたします。



写真：©FC GIFU

泉澤 仁 選手 (33 歳)

ホームタウン応援大使
瑞浪市、土岐市
ニックネーム
じん

39
MF